



ローソクの灯りで穏やかなひと時 ～黒磯駅前キャンドルナイト～

実行委員会の願いが届いたのか、天気予報の雨マークがはずれた6月17日。黒磯駅前にキャンドルの優しい灯りがともりました。今回で22回目を迎え、毎年恒例となっている黒磯駅前キャンドルナイトは、多くの家族連れで賑わいました。

道路の改装や新しい施設の整備など、そこかしこで工事が行われている黒磯駅前。新しい姿に生まれ変わっていく街並みに合わせ、賑わいを少しずつ取り戻せることに期待です。



田んぼの中に小さな動物園！ ～田んぼアート公開～

毎年、人気スポットとなっている西遅沢の田んぼアートが6月5日に公開されました。

パンダや秋田犬など、最近話題になった動物たちが描かれた田んぼアートは収穫するまで毎日午前9時～午後4時30分に見ることができます。

制作した中野登喜男さんは「お盆のころまでが特に見頃なので、たくさんの人に見に来てほしい。若い世代が農業に興味を持ってもらうきっかけになればいい」と話をしてくれました。



プロの圧巻の走りを目の前で ～那須塩原クリテリウム～

晴天に恵まれた6月9日の那須塩原駅前。第2回目となる国内最高峰の自転車ロードレース「那須塩原クリテリウム」が開催され、プロの自転車レーサーが駅前を疾走しました。目の前を瞬く間に駆け抜ける選手に、沿道からは熱い声援が。また、今年から始まったエキシビジョンには小学生のライダーも登場。那須ブラーゼンの選手たちと、普段は走ってはいけな道路の真ん中を楽しそうに走行していました。



1カーブを攻める選手。1周2.3キロの周回コースを次々に選手が駆け抜けていく。あまりの速さに沿道の観客にも風が届く。



2憧れ的那須ブラーゼンの選手の隣を、とてもうれしそうに走る子どもたち。3ゴール手前のラストスパート。最後の力を振り絞り、全力でペダルをこぐ。



塩原にはあの文豪も来ていたのです ～塩原温泉文学まつり～

塩原温泉は明治から大正にかけ、多くの文豪たちが訪れています。彼らの文学を研究・紹介している塩原文学研究会が中心となり、塩原温泉文学まつりが塩原もの語り館で開かれました。

塩原温泉文学まつりは金色夜叉の作者、尾崎紅葉が明治32年6月9日に塩原を訪れたのを記念して毎年6月9日に開催。今年も研究会メンバーがお気に入りの文豪に扮してクイズを出したり、金色夜叉の寸劇を行ったりして観客を楽しませました。



明治の邸宅で美しい音楽を ～青木邸ジャズコンサート～

白壁が新緑に美しく映える旧青木家那須別邸。明治期に青木周蔵の別荘として建てられたこの建物は、今回日本遺産に認定された那須野が原の開拓の歴史の一翼を担う貴重な建物です。

今年は明治元年から150年目。このことを記念して、ジャズコンサートが6月9日に青木邸で開催されました。爽やかな青空の下、本市出身の演奏者による軽快なメロディーにより、訪れた人たちは心地よいひと時を過ごしていました。



万が一に備えて 消火技術を競う ～那須地区危険物保安協会 消火競技会～

6月7日、那珂川河畔運動公園を会場に行われた消火競技会。この日は強い日差しが照り付け、それに加え大きな炎が燃え上がり、会場はかなりの暑さとなりました。そんな暑さとの闘いの中、懸命に消火を行う参加者たち。各企業や団体などから2人1組で約40チームが参加し、どのペアも一刻も早く炎を消そうと協力し合いながら取り組む姿勢が印象的でした。こうした取り組みが、もしもの時の初期消火につながるのではないのでしょうか。



上流から河口まで 交代でつなく ～清流那珂川カヌーマラソンagain～

メンバーが交代でカヌーをこぎながら、那珂川を下る「清流那珂川カヌーマラソンagain」。本市から姉妹都市・ひたちなか市までの150kmのコースを計5日かけて下ります。平成10年に1度実施され、20年ぶりの復活となる今回の挑戦には、台湾からカヌークラブのメンバーも参加。5月18日の出発式では「那珂川は水も綺麗で、流れの変化も楽しめる。川面から見える日本の景色を眺めながら、ゴールを目指したい」と意気込みを話してくれました。